

八中3年生人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第8号
2024年 7月10日
編集・文 吉成正士

八中3年生人権作文意見発表会

7月5日(金)午後、中学生になって3回目の意見発表会を開催しました。

私は人権作文を書くにあたって、「自分を語る」ことをお願いしてきました。「あなた自身のことを聞かせてください」と言いました。今回多くの皆さんが、本当にそのことを忠実に実践してくれたように思います。そして、発表につながりました。それが多くの聞く人の心を大きく動かし、勇気づけたように思います。誰かの、「一歩を踏み出す勇氣」が、聞く人の心を揺さぶったのです。「自分ひとりじゃない」という思いをした人が多くいたことが、このあとの感想文から読みとれました。発表してくれた6人に、本当に感謝です。

順	組	名前	題
1	3	安田 絢香	人権学習のカタチ
2	4	田中 美結	個性とコンプレックス
3	2	大屋 佳菜	引っ越しがあったから、 今の自分がある
4	6	川上 夏樹	男女差別について
5	1	三谷 千尋	なりたい自分
6	5	出葉 祈莉	人権に「普通」はいらない

感想文を中心に、意見発表会をふりかえってみたいと思います。

長所を見ることは、自分のため

■僕は人権作文意見発表会に参加して、全員の作文が素晴らしいと思いました。似たような題材でも、人それぞれで全然違う発表だったので、人によって感じ方は違うんだということを知りました。見た目にコンプレックスがあるという作文を発表してくれて、本当はあまり言いたくなかったかもしれないけれど、みんなの前で堂々と発表していて、すごいと思いました。自分がコンプレックスだと思っていることでも、他の人から見るとそれが自分の良いところと言っていたので、自分も短所を見るのではなく、いろんな人の長所をたくさん見ていこうと思いました。そうすると、たくさんの人の良いところが知れて、自分のためにもなると思います。でも、自分は良いところだなと思って相手に伝えると、相手からしたらストレスになるかもしれないから、本当に言っているか、自分が言われて嬉しいか、などを考えてから、相手に伝えることも大事だということも知りました。中学校生活はあと1年もないので、自分の中で今までの人権学習をふりかえって、これからの学びにつなげていくことが大切だと思います。これからも人権のことについて学んでいこうと思います。

1組IS

数カ月前、主要先進国の若者の自己肯定感に対する意識調査が発表されました。日本はいつものごとく、ダントツぶっちぎりの最下位だったようです。他国の若者の7～8割が、自分のことを肯定的に受け止めているのに対して、日本の若者は4～5割なのだそうです。「この数

値を上げなければ！」と躍起^{やつき}になって、「ほめ言葉」とか、ポジティブ行動支援とかに取り組むようになってきましたが、私はいつも、「みんなで語り合う人権学習をすればいいのに…」とと思ってきました。いじめや差別をなくすことについても、「みんなで語り合う人権学習をすればいいのに…」とと思っています。

いろんな取り組みがあるのはいいです。でも、いじめも差別も、自分が認められているかどうか、人間関係性のなかで起こってきます。だから、その根っこの部分について徹底的に語り合っていないと、根本的な解決には結びつかないように思うのです。

皆さんがもしこの意識調査をしたら、とんでもない数値をたたき出すことになるかもしれませんね。



個性とはキラキラ輝く宝石

■今回6名の人権作文を聞いて、本当に感動しました。そして、自分の意見を大勢の前で発表できるなんて、とても格好いいなと思いました。安田さんの作文を聞いて私は、人権委員さんが人権のこと、私たちのことをよく考えてくれたから、みんなが発表しやすい人権学習ができたのだと思いました。学習体制が変わってから、私はみんなの前で発表することができました。発表したときは怖かったけれど、うれしかったです。こんな気持ちになれたのは、人権委員さんのおかげです。本当に感謝しています。田中さんの作文を聞いて、自分の個性はキラキラと輝く宝石のようなのだと思いました。そんな個性をみんなと違うからといって、コンプレックスだと決めつけてしまうなんてもったいないと思いました。私にもコンプレックスはあります。今でもずっと悩んでいます。でもそれを自分の個性だと理解して、大切にしていきたいと思います。きっと理解するには多くの時間がかかると思うけれど、少しずつ頑張っていきたいです。今回の人権作文発表会で考えたこと、思ったことを大切にしていきたいです。

3組TM

「白＝善、黒＝悪」のような意識がどこかにありはしないでしょうか。マンガにも、善は白っぽいイメージ、悪は黒っぽいイメージで登場しているように思います。この意識は私たちの無意識下に存在して、生活や文化、いろんな場面に登場しているように思うのです。でもこれ

は、固定観念が生み出した価値観かもしれません。純白のウェディングドレスなんかはその象徴しやうちゆうといえるのかもしれません。そんななかで、黒人の人たちは、自分たちの肌の色を、どういう思いで見、生きてきたのでしょうか。

以前こんな話を聞いたことがあります。「黒は決して何色にも染まらない、素晴らしい色だ」と。見方・捉え方・考え方次第ですね。もしかすると、別なことで、皆さんのなかにも、他と比べて自己嫌悪じこけんおになってしまっていることがあるかもしれません。でもそれも、見方・捉え方・考え方ではないでしょうか。変わろうと努力することも否定はできません。でも、ありのままの自分に誇りをもつことだって、否定はできません。あとは、他を否定しないこと。自分が何を選ぶかです。



八中3年間だけで終わらじやなく

■やっぱり人権作文は1年に必ず1回は書くべきだと思います。年に1回だけでも書くことで、前の自分と比べて成長できたところを知ることができるからです。1年や2年のときと比べると、熱量も違うし、考え方も違う。でも、八中だけ人権意識が高くても意味がないと思いました。高校になったらみんながバラバラになるし、人権集会を企画しない高校だって数多くあるようです。八中の3年間だけではなく、高校でも社会人になっても…考える時間はまだあります。これからの人権学習、いわゆる八中の人権集会で終わらじやなくて、学び続ける向上心を持って、これからも人権学習に取り組んでいきたいと思いました。代表の6人のそれぞれの発表を聞いて、一つ一つの作文が自分事のようになったり、まだ経験したこともないようなことだったり…あらゆる方面での人権作文を聞いて、とてもすごいとしか言いようのないものでした。人権学習の考え方だったり、コンプレックスのことだったり、男女差別、価値観の違いだったり…発表してくれた人にはとても感謝しています。そのような作文のなかで一番印象に残ったのは、出葉さんの作文です。普通の考え方についてです。普通って、悪い意味にも、良い意味としてもとれるということを知って、確かにそうだと思いました。普通の価値観の違いが人それぞれにあることを、この作文が気づかせてくれました。なので、これから自分の普通の価値観の違いを押しつけないように生活していくと、今回も人権学習から学ぶことができました。

4組OK

「離れてからが、試される」

熱は冷めます。いくら熱が高まっても、熱はいつか冷

めてしまいます。自分事になっていなければ。それでも何とかしたいなら、自分を突き動かすエンジンを、自分の中に持つことです。

そこで一つ提案です。来春、次のステージで人権活動にかかわる場面が出てきたとき、自分がどう行動するか、シミュレーションしておくというのはどうでしょうか。それは教室かもしれません。人権委員を決める場面かもしれません。もしかすると、人前で立って何かをしゃべらなければならない場面かもしれません。あなたなら何をしゃべりますか？

中学校時代にしてきた人権学習をしゃべりますか？

自分のことについて語りますか？

具体的にどんなことをしゃべりますか？

そこに至るまでの過程をていねいにシミュレーションしておくというのはどうでしょうか。それでもいろんな壁にぶち当たっては、悩み込む場面も出てくるかもしれません。そのときは、自分のなかの「ゆずれない思い」とは何かを見つめてみることです。

「普通」をなくし、線をなくす

■今日、人権作文意見発表会を受けて、本当にいろいろな考え方があるなと思いました。男女差別のことやコンプレックスのことなど、大まかに括ったら同じような内容でも、経験したこと、考えたこと、伝えたいことなど、当たり前だけど人それぞれ全然違っていたし、これが最後、三谷さんも言っていた、「個人差で認めていかななくてはいけないもの」なんだなと感じました。私は今日聞いていた6人のなかで、何回聴いても出葉さんの「男の人の体だからって心も男の人ということではない」という考えが、とても心に簡単に入ってきたし、「普通」をなくしていく人権学習にすごく納得できました。その「普通」が社会でいう、「恋愛は男と女がするもの」、「男は働いて女は家で家事をこなすもの」、「人間の肌の色は白いもの」という古い固定観念に縛られてきたもので、そのせいで苦しんだりする人がいると思います。まずは、その「普通」をなくし、お互いの中にある線をなくしていくことが大切だと思います。それをするための第一歩として、私はお互いを知ることが大事なんじゃないかなと思いました。私は今日、みんなの前でコンプレックスを語ってくれた子たちの話を聞いていて、正直、とてもうらやましいなと思っていました。でもそれは、その子にとってはあまりプラスのことではないわけで、何て言うか、上手くは言い表せないけれど、難しいと感じました。お互いがお互いのことを完璧に理解するのは難しいと思います。でも、相手に寄り添えることはできます。お互いを知り、違いを尊重できるように私もしていきたいし、そうみんながしていけるようになったらいいなと思います。

5組OM

その昔、絵の具や色鉛筆に、「はだいろ」という色がありました。日本が国際化していくなかで、肌の色は人それぞれ違うということに気づいて、今では「ベージュ」とか、別の呼び名に変わりました。それまで当たり前だったことに疑問を感じて、「おかしいぞ」となったら、それまでの「当たり前」は「当たり前」でなくなっていくと思います。そうやって固定観念は変わってきました。まだまだこれからも変わり続けるでしょう。だからこそ、アップデートし続けること、学び続けるという視点を大切にもち続けることが必要なのだと思います。(9号につづく)